

日本放射光学会会員のみなさま

時下、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

日本放射光学会では「放射光学（放射光科学と放射光工学）の進歩発展を図る」ことを目的に放射光コミュニティを代表してさまざまな活動を行っております。具体的には、1）放射光学会誌の発行やブルーバックスなどの書籍刊行、2）年会・合同シンポジウムの開催やアジアオセアニアフォーラムなどの共催、3）基礎講習会や若手研究会などの開催、4）All Japanの放射光科学ビジョン・ロードマップの策定、などを行っております。

また、コミュニティの意見をまとめて迅速に文部科学省などと交渉を行うことも大きな役目だと考えています。放射光科学（物質科学と生命科学）の進歩発展は放射光源の性能に大きく依存しているため、国内放射光施設と密接に連携しており、最近の例としては2009年末の事業仕分けでSPring-8 予算削減という判断が出された時には真っ先に反対の声を上げて文部科学大臣への要望書を提出し、また今年3月の東日本大震災でKEKが大きな被害を受けた時にもすぐに文部科学省に早期復旧の要望書を提出しました。

こういう放射光コミュニティを代表した活動は、学会員のみなさまからの会費によって支えられています。しかし現状では、この会費のほとんどが学会誌出版費に当てられています（下図参照）。2003年に学会誌をフルカラー化し、みなさまから好評を頂きましたが、景気の悪化により企業からの収入が減少したため、2007年には会費を値上げせざるを得なくなりました。しかしさらなる景気の悪化のために、財政的に困難な状況が続いています。一方、時代は電子出版化に向かっています。放射光学会でも数年前よりフルカラーのpdf版をホームページからダウンロード出来るようにいたしました。これを活用して紙媒体での出版を無くせば、むしろ会費の値下げも可能です。

そこで、放射光学会では学会誌出版に対するアンケートを実施することといたしました。ご協力の程、よろしくお願いたします。

2011年5月23日

日本放射光学会会長

尾嶋正治

日本放射光学会の財政状況

2011年5月14日評議員会資料

決算の年度推移（学会誌に記載されている決算データより）

